



市長
結城市でも、昨年の5月に、古河市出身の元プロ野球選手、仁志敏久さんなどにお越しいただき、野球教室を開催しました。確かに塚原さんがおっしゃるとおり、「いろいろ聞きたけれど恥ずかしい」という子どもたちの気持が垣間見えて、もったいないなという印象を受けました。

塚原
そうですね。スポーツは自分から動く子のほうが成長すると思うので、野球に限らず、楽しみながら食欲にスポーツに取り組んでほしいですね。

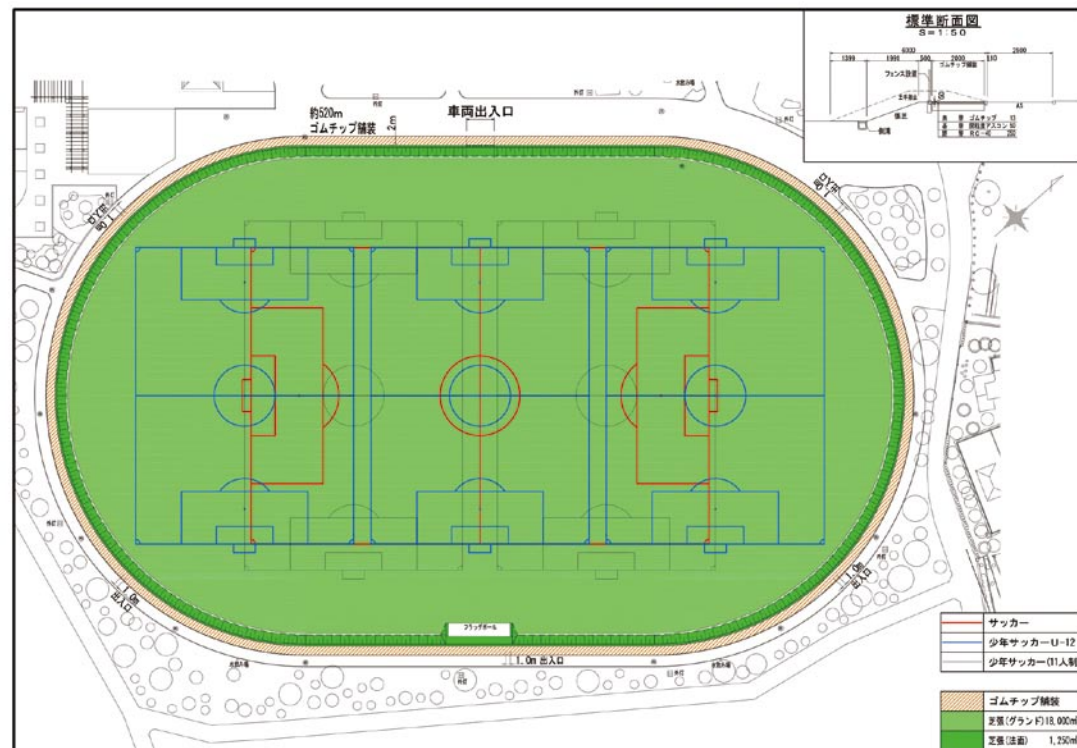
関
最近、外でほとんど遊ばない子も増えていますが、まずは体を動かす楽しさ、気持ちよさを感じてほしいですね。

塚原
はい。ただ、最近は球技などを禁止する公園も増えていきますよね。例えば、フェンスを少し高くしたりして、身近な場所でのびのびと運動できる環境を整えれば、もっとスポーツが身近になると思います。

市長
そうですね。実は市でも、鹿窪運動公園の多目的運動場

を専用サッカー場として整備する予定で、今年8月の開場を目指して準備を進めているところですよ。

が1面とれるコートを整備します。小さいころから芝でのプレーに慣れることで、技術や意欲の向上に繋がり、将来プロのサッカー選手がこの結城市から生まれることを期待しています。



鹿窪運動公園サッカー場の整備計画図

塚原
そうなんです。天然芝で足腰への負担も少ないですし、ぜひ今度自主トレで使わせていただきたいですね。

関
塚原さんが空手や野球をしていて、「感動したこと」はありますか？

塚原
やはり勝利したときですね。優勝したときは、今までの辛い経験が吹っ飛ばぐらい嬉しいですね。スポーツを続けていて良かったと思う瞬間ですね。

関
あとは、練習したことが試合でできたときです。今は仕事として野球をしているので、純粋に楽しむ瞬間は少ないですが、それまでできなかったことができるようになったときには、やはり喜びを感じますよね。

関
その感動を、結城の子どもたちにも経験させたいなと思うんです。それには「努力」が必要ですね。厳しい練習をしたからこそ、感動が味わえると思います。

関
ただ、厳しさを逃げないことは大切ですが、それに耐える子どもたちは辛いんですよね。家族や先生、周囲の方々が支えになってあげることが大切です。

市長
競技者、指導者、保護者など、いろいろな立場がありますが、行政としても、市民全員が気軽にスポーツに取り組み、心からスポーツを楽しめる環境を整えていく必要がありますね。



関
スポーツは「文化」だと思います。スポーツに挑戦することは、子どもに限らず大人になってもできます。最近ではさまざまな教室やセミナーも開かれていますし、鹿窪運動公園で散歩をする方がとても多くなっていると感じます。いろいろなスポーツを経験し、たくさんの人と交流して、スポーツ好きな市民が少しでも増えていったら嬉しいですね。

— 貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございます。今回の対談における質問は以上となります。

塚原選手直筆サインボールをプレゼントします！



塚原
昨年は54試合に登板できたので、今年は60試合登板を目標に頑張ります。そして結城市民の皆さん、ぜひ野球を、そしてスポーツをより楽しんでください。もともと結城市が盛り上がった嬉しいことです。

僕も頑張つて結城市をアピールしますので、今シーズンもぜひ応援をよろしく願います。

市長
ありがとうございます。塚原さんや関会長よりいただいた貴重なご意見を生かして、本市のスポーツがさらに発展するように尽力していきたいと思っています。本日は新春対談にご参加いただきありがとうございます。最後となりますが、塚原さんの今シーズンの更なる活躍と、市民の皆様にとって2017年が素晴らしい年になりますことを、心よりご祈念いたします。

応募期限

平成29年1月20日（金）はがきは当日消印有効、市ホームページは当日17時まで受信有効です。

※ご応募は結城市内在住の方のみ対象、お一人様1回までとさせていただきます。また、必要事項が未記載の場合も無効となりますので、あらかじめご了承ください。
※電話・FAXではご応募いただけません。



<https://www.sec-brown.jp/cms/yuki/mailform.php?code=6>